



オヤジたちの国際貢献(19)

2024-2025



認定特定非営利活動法人

日本地雷処理を支援する会

Japan Mine Action Service



▶目次

- ▶発刊に寄せて
- ▶2024ー2025概観
- ▶カンボジア王国
- ▶パラオ共和国
- ▶ミクロネシア連邦
- ▶本部
- ▶会勢概況
- ▶ご支援のお願い
- ▶研修・見学・講演・取材申し込み受付

JMASの2024年4月～2025年3月の活動国



▶ 発刊に寄せて



会長 山崎幸二

皆様には、平素から日本地雷処理を支援する会(JMAS)に対し、ご支援を賜り心より感謝申し上げます。

「オヤジたちの国際貢献(19)」は、2024年度のJMASの活動について写真と簡潔な記述により、ご報告するものです。

現在、JMASはカンボジア、パラオ、ミクロネシアの3カ国において活動しております。現地代表を核心に専門家及びスタッフたちが、厳しい環境の中で、これまでの戦争や紛争で残された地雷・不発弾等の爆発物の処理及び海洋の環境改善事業に取り組むとともに、地域の復興を支援し、各国から高い評価を受け、現地住民の方々から感謝されています。

昨年7月、カンボジアを訪問し、現地で汗を流す専門家及びスタッフたちを激励するとともに、フン・マネット首相に表敬する機会を得ました。首相からは、2002年からの主要事業である地雷や不発弾の処理をはじめ、安全化された地域の農地整備事業、道路補修、学校建設、住民に対する危険回避教育などの数々の活動に対する謝意が示されました。特に、「現在のカンボジアの平和と繁栄があるのは、JMASのお陰です。国民を代表し感謝申し上げます。」との言葉は印象的でした。まさに、この評価は、これまで日本人及びJMASとしての誇りを胸に、誠意と真心を持って、現地の人々と共に汗を流し、国際貢献活動に励んできた先人と現役の努力の賜であると思います。

JMASは、我が国の国際貢献活動において重要な役割を果たしております。また、多くの国々でJMASの活動が期待されています。これまでの活動を通じて得た成果や教訓を生かし、現地のニーズに的確に応え、「JMASならではの活動」に取り組んでいきたいと思ひます。今後とも、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。





理事長 岸川公彦

ようこそ「オヤジ達の国際貢献(19)」へお越しく下さいました。
JMAS理事長の岸川です。

改めて、日頃から「日本地雷処理を支援する会」(JMAS)の活動に深いご理解と暖かいご支援を頂いている皆様に対し、心より感謝申し上げます。

おかげさまで、我々JMASはカンボジアにおける地雷・不発弾等の処理活動、パラオにおける爆雷の処理活動、そしてミクロネシアにおける油回収活動を通じて、「安全で豊かな社会の創造」を目標に日々取り組んでおり、これまでのところ着実に成果を積み上げているところです。

また、これらの活動に加え、カンボジアでは、シェムリアップで開催された「対人地雷禁止条約」関連会議の機会を活用した広報活動や朝日小学生新聞とのコラボによる2度にわたる日本の小学生とのオンライン・セミナーなどにも取り組みました。また、本邦では、自衛隊協力団体とのコラボにより、陸上自衛隊の音楽演奏会の場を活用した募金活動にも取り組みました。

一方、部内的には、一昨年の事案の教訓を踏まえ、組織としてのコンプライアンスの強化にも精力的に取り組んできました。これら一連の活動を通じて、組織の活性化にも鋭意務めているところです。

さらには、一昨年策定した将来ビジョン「JMAS2030」に基づき、今後のウクライナ復興支援分野での貢献を予期し、ポーランドやスイスでの現地調査研究を行うとともに、アフリカ大陸セネガル共和国における新規事業を予期した現地調査も2度にわたり実施するなど、新たな事業の開拓に向けた動きも着実にやってきたところです。

このように、JMASとしては、将来ビジョン「JMAS2030」に基づき、今後はこれらの一連の活動をさらに活発化させ、「安全で豊かな社会の創造」の実現を目指して、日々邁進して参ります。

今後も、引き続き、我々JMASの活動に対し、深いご理解と暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

▶2024-2025概観

1 世界の地雷不発弾(ERW)問題の現状

Landmine Monitor Report 2024

オタワ条約加盟国	164の加盟国、33の未加盟国(2024年11月時点)
地雷汚染国	58の国と地域(33の加盟国、22の非加盟、3の地域)
地雷/*ERW被害者	2023年 死傷5,757人、死者1,983人、傷者3,663人、不明111人 民間人4,335人、軍人809人、地雷除去員15人、子供1,498人 対人地雷833人、対戦車地雷291人、IED2,071人、不特定351人
死傷者500人以上	非締約国:ミャンマー1,003人(最多)、シリア933人 締約国:アフガニスタン651人、ウクライナ580人
重度汚染国 (100km ² 以上)	アフガニスタン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、カンボジア、 エチオピア、イラク、トルコ、ウクライナ
2023年世界での 地雷処理結果	除去締約国:処理面積281.5km ² 160,566個の対人地雷処理 (参考:2022年 219.3km ² 169,276個)
対人地雷使用者	締約国:ウクライナ 非締約国:ミャンマー、ロシア、イラン、北朝鮮
	武装集団:コロンビア、インド、ミャンマー、パキスタン、パレスチナ(ガザ)非国家武装Gp、その他アフリカサヘル地域および隣接国
地雷除去完了	30の加盟国、1の非締約国、1の地域
処理資金額	2023年 約10億3,000万米ドル 2022年に比し、1億1,210万米ドル(12%)の増(3億810万米ドルをウクライナ活動に充当)
2025年 5条義務完了予定	2025年までに期限を迎える国:19カ国 2025以降期限を迎える国:14カ国 2026年:アルゼンチン、クロアチア、モリタニア、セネガル、 南スーダン、タイ 2027年:ボスニア・ヘルツェゴビナ、ソマリア、スーダン 2028年:イラク、パレスチナ、スリランカ、イエメン 2033年:ウクライナ
対人地雷生産国	イラン、インド、ミャンマー、パキスタン、ロシア、韓国、北朝鮮、 キューバ、シンガポール、中国、ベトナム、アルメニア

* ERW(Explosive Remnants of War)

2 JMAS 2024－2025活動概観

(1) 全般

JMASは、カンボジア、パラオ、ミクロネシアの3ヶ国で、地雷・不発弾及び海中の爆発物等の処理、農業支援、農地整備支援、戦没船の漏油対策等、生活環境の改善を支援する事業を行って参りました。また、新たにセネガル共和国のERW処理支援事業を予定する地域の現地調査等を行いました。



カンボジアでの危険回避教育



セネガルでの現地調査

(2) 成果の概要

カンボジアでは地雷密度の高いタイ国境のバンテアイミアンチェイ州において地雷を処理し、安全化した地域で米の二期作の試験圃実演栽培や農業研修会、農家に対する巡回指導を行っています。農地整備支援と併せて米の大幅な収穫量の増加に寄与しています。

また、ストウントレン州ではかつてのホーチミンルート沿いの不発弾をクラスター子弾除去機と人力を組み合わせる統合機械処理により安全化するとともに、試験農場における換金作物の展示栽培等、畑作を中心とした農業支援活動を行ってきました。

観光立国パラオにおいては、3月6日にヘルメットレックの爆雷の最後の処分を行い全469発の処理が完了しました。引き続き、ERW処理とコロール州レンジャーに対する技術移転教育を実施中です。

ミクロネシアでは、チューク環礁の戦没船内に滞留する油の回収や戦没船のモニタリング、チューク州職員等に対して潜水技術等の技術移転を行っています。

2024年度活動成果総括表

地雷・不発弾処理数 (クラスター子弾除く)	935発
クラスター子弾処理数	214発
同上安全化面積	517ha (5.17km ²)
処理技術教育	89名
危険回避教育	163回 3,429名
農地整備	56.5ha
道路整備	8.1Km
側溝整備	5.8Km
水路新設	0.4Km
暗渠構築	8力所
戦没船状況調査	10隻
爆雷処理	165発
滞留油回収	21,430L
潜水等技術移転	8名

▶カンボジア王国

1 現地の声



軽部真和 前現地代表①

カンボジア人と日本人スタッフが一体一丸となって、厳しく楽しく誠実に任務達成に向けて日々取り組んでいます。



浦野重之 現地代表①

2025年2月に着任しました。カンボジアでは古き良き時代の日本を感じています。道路交通は少し違いますが。



中野雅仁 専門家③

今年も、JMASの一丁目一番地「安全第一」で事業を進めます。



堀井勝利 専門家③

安全・安心な国づくりのために最善を尽くし、地形及び気象を克服し、安全第一で処理作業を実施します。



住友紀允 専門家③

農業支援5年目。村農業の基盤を堅実に築いてきました。この先、村農業がどう発展していくのか楽しみです。



藤原彰 専門家④

新規事業（PRCS）の開始です。スタッフ共々、新たな気持ちで各組織と連携しながら安全・確実な処理を心がけます。



福栄重 専門家④

昨年7月からクラスター子弾処理に参加し、2年目に突入致しました。安全第一、健康面に気を使い頑張っています。



米司綾逸 専門家④

ボカシ肥料、15本の井戸、野菜栽培の棚。活動した3年間の成果が、将来に生かされることを期待しています。



下園修良 専門家②

カンボジアが地雷や不発弾の脅威から解放されていることを実感するとともに、そこにやりがいを感じています。



アム・ヴィトゥー
プロジェクトマネージャー②

カンボジアの人々に対する日本の皆様の親切に感謝します。私たちはあなたの善行を常に覚えています。



横山圭介 総務①

地雷全廃の道のりは遠いですが、着実に成果が出ていることを実感しています。



- ① プノンペン
- ② バッタバン州
- ③ パンテアイミアンチエイ州
- ④ ストゥントレン州

2 事業活動

(1) バンテアイミアンチェイ州における地雷処理・農業支援活動(地図③)

ア 地雷処理活動

2024年はタイ国境沿いのマライ郡とスヴェイチェック郡にて地雷処理を実施しました。

2025年2月からの事業においても、引き続き両郡で3個の編成・装備の異なるチームを処理地域の地形、植生等に応じ、適所で運用することで成果を上げています。また、専門家は現地の学校や集会所等で危険回避教育を実施し、地雷不発弾による事故の絶無を目指しています。



リフレッシャー教育をする専門家



学校での危険回避教育



住民からの通報を受け、回収作業を実施



地雷原見学者に説明をする専門家

イ 地雷・不発弾処理事業成果(2024年4月～2025年3月)

処理面積	対人地雷 (うち回収要請)	対戦車地雷 (うち回収要請)	不発弾 (うち回収要請)	住民からの 回収要請	危険回避教育 受講者
171. 63 ha	221個 (87個)	1個 (1個)	461発 (233発)	60回	1, 558名 (17回)

ウ 農業支援活動

2024年は、試験圃場での水稻実演栽培展示及び農業研修会その他、14戸の農家を中心に巡回指導、約17haの水田整地支援を実施しました。

今年は、当地域において計27戸の農家に対する指導と約14haの整地を通じ、栽培技術向上、農業収益増加を目指しています。



稲作巡回指導



試験圃場の稲収穫

(2) スラントレン州における不発弾処理・農業支援活動(地図④)

ア クラスター弾処理活動

2021～2024年にかけて、ホーチミンルートと呼ばれた旧国道沿いのクラスター弾で汚染されたセサン郡の土地約1,400haを安全化しました。

2025年からは同州のラオスと国境を接するボレイオウスヴァイセンチェイ郡で同様の活動をしています。



探査活動中のCMAC隊員



クラスター弾除去機による破碎処理



不発弾の爆破処分



住民に対する危険回避教育

イ 処理事業成果(2024年4月～2025年3月)

処理面積	クラスター子弾 (うち回収要請)	不発弾 (うち回収要請)	対人地雷 (うち回収要請)	対戦車地雷 (うち回収要請)	危険回避教育 受講者
346.04 ha	214発 (19発)	239発 (165発)	13個 (13個)	0個 (0個)	1,871名 (146回)

ウ 農業支援活動

試験農場は最後の年次を迎え、スタッフも作業に慣れボカシ肥料製造も細かな指示は必要ないほどに成長。掘った5本の井戸にはそれぞれ10戸ほどの農家が給水に來ます。テーブルを使った菜園も定着してきたことで支出が抑えられ、豊かな食卓になることが期待されます。



試験農場職員全員集合



ボカシ肥料の製造



カシューナッツの防除



テーブルの上で育つ野菜

(3) 安全な村づくり事業(地図③)

ア インフラ整備活動

地雷除去跡地の地域インフラ整備を担っていたこの事業は、2024年12月をもって終了となりました。今後ここでの人材や資機材は農地整備に集約します。



見事に整備された道路。奥へと延びる道は全長2,200mに及びます。また、右に向かう道路は、計画外ながらも、住民の熱心な要請に応じて新設した750mの道路です。



地元との土取場の調整に始まり、岩石や土の敷き均し、締固めを通じ、堅固な道路を作っていました。

イ 安全な村づくり事業 事業成果(2024年4月～2024年12月)

バンテアイミアンチェイ州	道路整備	側溝整備	暗渠設置
	5. 1km	5. 8km	8箇所

(4) 農地整備支援事業(地図②、③)

ア 圃場均平化作業

バットンバン州とバンテアイミアンチェイ州で実施しました。米作はカンボジア農家の主な収入源です。圃場を平らに整備することで、農家の水田を収穫率の高いものに変えていきます。



安全第一を毎朝心に留めて作業へ



こげ茶色の円形は撤去された蟻塚跡



適切な運用により、すべての機械を同時に稼働



農作業全体を考え、農道の整備も

イ 農地整備支援事業成果(2024年4月～2025年3月)

バタンバン州バナナ郡 バンテアイミアンチェイ州マライ郡	農地(水田)の均平化:実績/計画、その他
水田均平化	56.5 / 50.0 ha
用水路建設	405m
畦道等農道建設	3,010m

3 トピックス

第5回オタワ条約評価会議(2024年11月25日～29日)

(The Siem Reap-Angkor Summit On A Mine-Free World)



議長国カンボジアの代表者
トゥイ氏(右)と次回議長国日
本の市川軍縮大使(左)。カン
ボジアの地雷不発弾処理をめぐ
る現状、また今後の対応、そし
て世界における状況が議題に挙
げられました。



英利アルフィヤ外務大臣政務官と植野篤志駐カンボジア大使へ地雷処理について説明



アンコールワットで地雷処理関係者による
世界における地雷廃絶を願う大行進



カンボジア赤十字事務局長による
JMASブース訪問

▶パラオ共和国

1 現地の声



武 洋一 前現地代表(～2024. 12. 11)



島田 正登 現地代表 (2024. 12. 12～)

2012年から始まったJMASのパラオ事業も第1の目的であった「ヘルメットレック」の爆雷処理が完了し、長年の目標が達せられ感無量である。一方で、パラオには我々がやるべきことはまだまだ多く残っており、ここで気を抜くことなくパラオの海の安全を守るべく日々の業務に邁進していきたい。



篠山 浩司 ERW専門家(主任)

長年、行ってきたヘルメットレックの爆雷、砲弾等の処理も終了し汚染されてた火薬(ピクリン酸)も無くなり多くの魚も戻ってきた、後は危険海域としての指定解除を待つばかりです。

さらにレンジャーチームの技術移転教育も最終段階になったが更なる維持向上を目指し安全に教育を行っていききたいと思う。



橘 利至 ERW専門家

ヘルメットレックの爆雷処理を無事故で終えることができた。今後も安全に気を付けて最後までやっていきたい。



井筒 直樹 ERW専門家

昨年12月に着任し初めてのことばかりでしたが、諸先輩方々から親切丁寧にご指導いただき日々やりがいを感じ充実した毎日を送っております。

地元レンジャー技術移転教育の成果も素晴らしく彼らの能力の高さと熱心な指導の効果を実感しております。



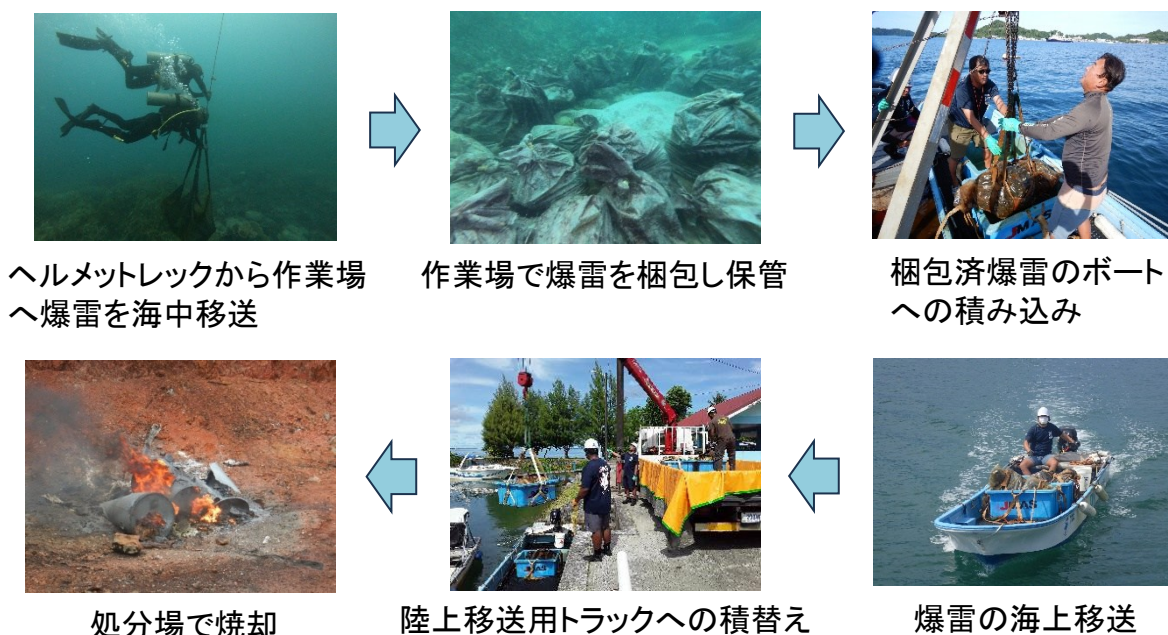
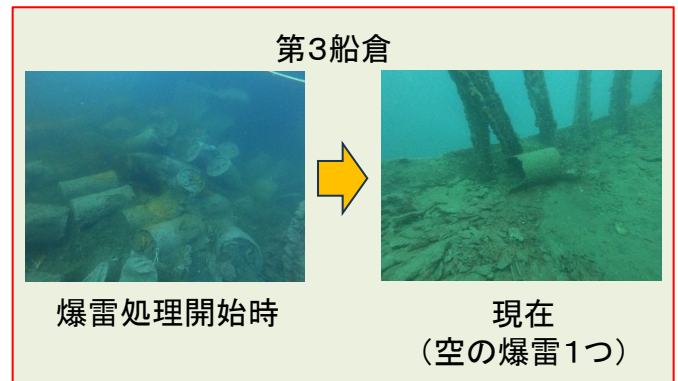
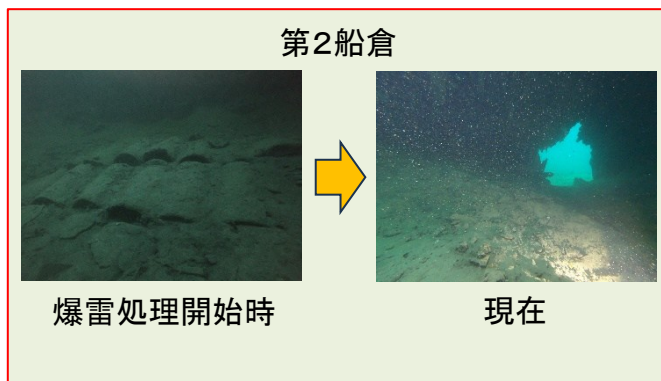
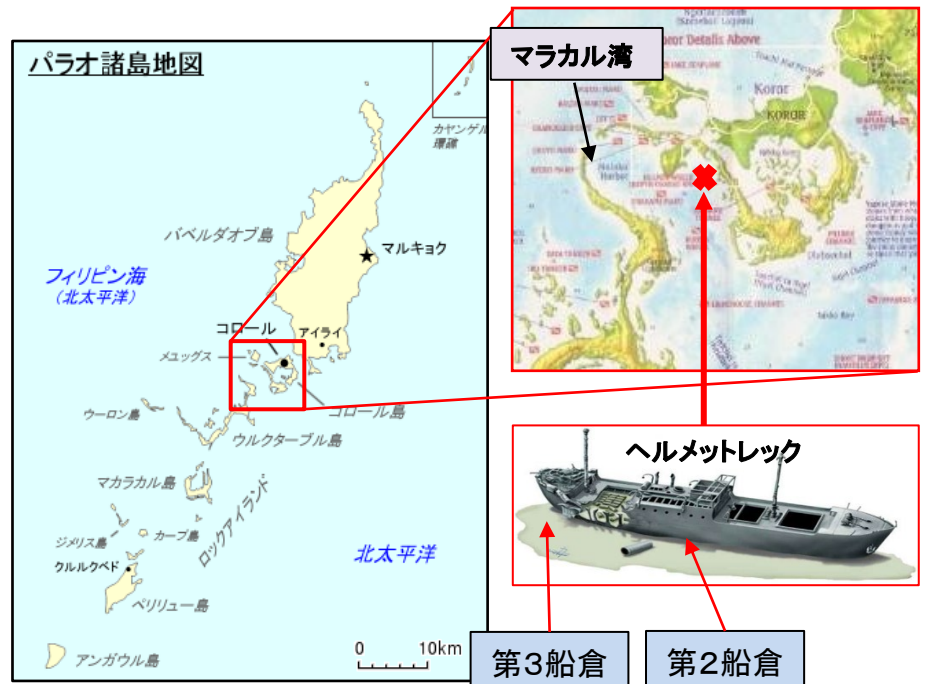
星野 光男 パラメディック

マラカル湾等で定期的に発見される爆雷等を考えると、まだまだ発見しつくされていない戦争の負の遺産。このままパラオ国民に不安を残してこの地を離れてよいのか？パラオ国民のことを考えると複雑な心境である。

2 事業活動・成果

(1) 「ヘルメットレック」の爆雷処理

通称「ヘルメットレック」の爆雷処理は、本格的に始めた2019年3月以降計469発を処分し、2025年3月6日に無事完了しました。爆雷処理は、船倉から爆雷を一つずつ引き上げ海中で梱包し、海上及び陸上を処分場まで移送した後に焼却処分するという地道な作業の積み重ねでした。特に後半は、経年劣化で崩壊した爆雷の破片を手で集めて袋詰めするなど、困難を伴うものでしたが、この1年間で残りの爆雷165発を全て処分することができました。



(2) その他の不発弾(ERW)処理

「ヘルメットレック」から爆雷以外に8cm砲弾22発を回収しました。

また、マラカル湾を中心にERWの探査及び処分を継続して実施し、20mm機関砲弾約260発、40mm機関砲弾12発、8cm砲弾4発、12.7cm対空砲弾3発、二式爆雷5発、爆弾2発等を発見し処分しました。また、Mk25磁気感應機雷1発及び100kg爆弾6発が発見後3月末の段階で処分待ちの状態です。



「ヘルメットレック」から回収した8cm砲弾



20mm機関砲弾



40mm機関砲弾及び小銃弾等



12.7cm対空砲弾



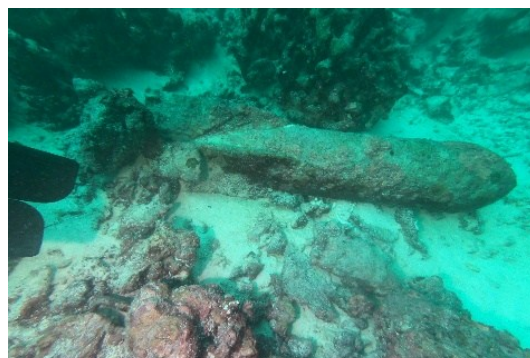
二式爆雷



Mk64爆弾



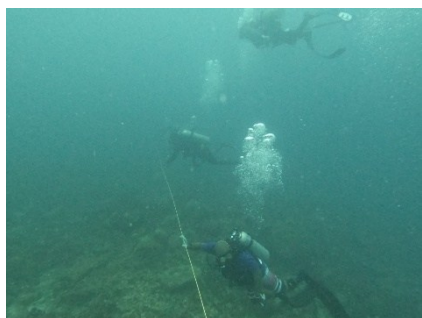
Mk2Mk5磁気感應機雷(処分待ち)



100kg爆弾(処分待ち)

(3) 技術移転教育

2019年3月に開始したコロール州レンジャーに対する教育もいよいよ最後の6年目となり、ERW探査や移送作業などの反復実習に加え、応用的な海中作業の経験を積むことにより、技術面での向上には顕著なものがあります。今後は、今までの教育成果に基づき、将来のパラオ自身によるERW処理活動の核となり得る人材の更なる技能向上に配慮するとともに、彼らを中核とする態勢作りへの支援を積極的に進めていきます。



「ジャックスティ検索法」による
ERW探査実習



爆雷のトラックへの移載を
指揮するレンジャー隊員



沈没ボートの引き揚げ作業を
訓練を兼ねて実施

3 トピックス

2024～2025の一番のトピックスは、やはり「ヘルメットレック」の爆雷処理が完了したことです、その他を写真で紹介します。

岸川理事長によるパラオ事業視察



アイタロー国務大臣表敬



ウィップス大統領表敬



理事長による処理場視察



寄港中の海上自衛隊護衛艦
「ありあけ」を訪問



年明けの複数地方紙にパラオ
におけるJMASの活動が紹介

▶ミクロネシア連邦

1 現地の声



高木 雅弘 前現地代表(2022.11 – 2025.3)

去年3月に再展開して1年。ゼロからのスタートでしたが、各専門家の努力で目標の2倍近い油を回収出来ました。これも偏に皆様のご支援の賜物です、ありがとうございました。

尚、この度、足掛け4年のチュークでの勤務を終え、今度は日本でチューク事業を担当することになりました。



内山 哲也 現地代表(2025.3 –)

チューク環礁の油流出に関しては、周辺各国もそれなりに問題意識を有していますが、現時点での実行部隊はJMASのみです。

今後も回収に取り組むとともに将来は自国で対処できるように要員養成に努めます。JMASミクロネシアの老兵たちは今日も元気です。



南 智行 専門家 (2024.3 –)

あっという間の1年。2年目も感謝の気持ち忘れずに、色々なことに挑戦していきたいと思います。



後閑 有治 専門家 (2024.3 –)

チュークにきて1年。困難だらけの中、多くの方々からのご支援を受け、スタッフ一丸となり事故なく大きな成果をあげることができました。次年度以降も安全重視を心掛け、更なる成果を目標に頑張っています。



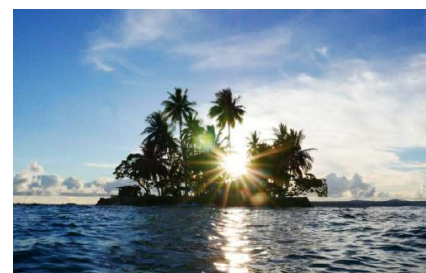
関根 健司 専門家 (2024.3 – 2025.2)

千葉県習志野市出身、陸自(空挺団)OB59歳です。深深度潜水作業を行う上で健康管理や気象・海象条件の把握や物心両面の準備を確実にして、チームメンバーとともに頑張っています。



福山 一徳 総務・会計担当(2024.3 –)

南の島で暮らしてみませんか？
後任者絶賛募集中！



2 ミクロネシア連邦チューク州における戦没船油漏れ対策事業

先の大戦中、旧日本海軍の拠点であったチューク(旧名トラック)諸島では、昭和19年2月17日・18日の米軍による大規模航空攻撃を受け、タンカーを含む多くの艦船が沈没しています。沈没後81年を経た現在、艦船構造材の腐食劣化・崩壊が進むことでこれらの戦没船から油が漏れ出し、美しい海を汚染するリスクに直面しています。JMASは、2017年からこの地において油漏れ対策事業を行っています。

残存油脂推定見積量: 約160,000L

(潜入調査可能な状態にある戦没船のみの合計量)

事業内容と成果

(1) 漏油回収 【回収量】

・事業開始～2023年度まで 39,016L

・2024年度 21,430L

★ミクロネシア事業 漏油総回収量
合計 60,446L



(2) 戦没船の継続的なモニタリング

対象船10隻に対し、油漏れの有無・経年劣化状態を確認 ⇒ 異状なし

(3) チューク州政府職員等に対する技術移転教育

潜水資格を付与した職員2名にOJT訓練を実施し、練度を維持・向上させた。





回収した油は一時保管され州政府に
引き渡される



油回収作業に向かう高木
現地代表、南専門家、鈴木
統括責任者、関根専門家、
後閑専門家(右から左へ)



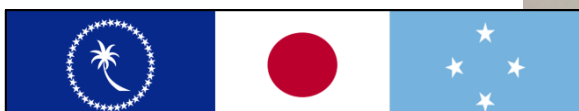
オーストラリアNGO「MPF」のマット氏
と意見交換を行う高木現地代表

3 トピックス



ミクロネシア連邦外務大臣ロバート氏を表敬
(現地視察中の岸川理事長と山内監事)

州知事ナルーン氏を表敬
(高木現地代表以下5名の
JMAS現地勤務者)



▶本部

1 全般

(1) 第22回通常総会

6月19日、第22回通常総会を開催し、令和5年度の事業成果及び令和6年度の事業計画等について承認されました。また、理事長が中断していたN連事業の再開を報告するとともにと検討中のセネガルでの新たな事業構想について概要を説明しました。



第22回通常総会



理事長による説明



佐藤正久会員も参加

(2) 山崎会長カンボジア王国訪問

山崎会長は7月9～15日の間、カンボジア王国を訪問し、フン・マネット首相をはじめ、CMAAリー・トゥイ第一副長官、CMACヘン・ラタナ長官、植野篤志駐カンボジア日本特命全権大使等を表敬しました。また、プノンペン事務所、バットアンバン州及びバンテアイミアンチェイ州の活動現場に赴き、現地の人々と汗を流す軽部真和代表・専門家等の隊員を激励しました。フン・マネット首相をはじめとする政府関係者からは2002年から22年間実施してきた活動に対し感謝の意が表されました。



CMAAリー・トゥイ第一副長官表敬



地雷処理現場視察



農地整備支援事業視察



コミュニティ開発事業地
小学校訪問

2 広報

(1) グローバルフェスタ2024出展

国際協力イベント「グローバルフェスタ2024」(9月28日～29日:東京・新宿住友ビル三角広場・新宿中央公園)にブースを出展しました。今年は「国際協力70年ともに未来へ」をテーマとし、約200団体の参加があり、昨年を大きく上回る7.4万人の来場がありました。

今回、JMASブースに隣接して外務省の展示コーナーが設置されました。「地雷処理と復興支援 マイナスからゼロへ、ゼロからプラスへ」と題して、JMASのカンボジアにおける人力による地雷処理や対人地雷除去機による処理状況、地雷処理跡地における農業支援活動、コマツの小学校立替え、農地整備支援などの復興支援の写真が展示され多くの人に立ち寄って頂きました。



ブース展示



外務省展示コーナー

また、29日にステージプログラムとして行われた外務省の「世界をつなぐ平和への願い～地雷除去支援でミライを紡ぐ～」と題したトークイベントにはコリコ田中さん(JMASが撮影協力した外務省の広報ドラマ「ファーストステップ3世界をつなぐ平和の願い」にJMAS職員役として出演)をゲストに迎え、外務省国際協力局日下部審議官、JMAS職員、コマツ地雷除去プロジェクト室柳樂室長が登壇しカンボジアでの地雷除去支援や復興支援などJMASの活動について紹介しました。



外務省広報動画「ファーストステップ3」
外務省ホームページからご覧になれます



トークイベント



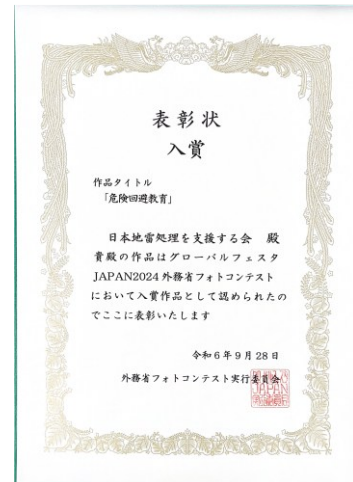
出展: ©FANY マガジン

(2) 外務省フォトコンテスト入賞

グローバルフェスタに合わせて実施された外務省フォトコンテストにおいて、カンボジアの中野専門家のタイトル「危険回避教育」が入賞しました。会の応募作品は2021年から4年連続入賞しています。



タイトル「危険回避教育」



(3) 陸上自衛隊中部方面音楽隊後援会様による広報

陸上自衛隊中部方面音楽隊後援会(会長:寺田英四郎様)は演奏会の機会を捉えて当会の活動を積極的に広報して頂いています。特に、演奏会のパンフレットに紹介記事を掲載頂くとともに、12月6日の堺のコンサート及び1月18日の新神戸の阪神・淡路30周年祈念演奏会会場ではパネル・地雷模型を展示し当会の活動を紹介させていただきました。また併せて募金活動を行って頂き多額のご寄附を頂きました。



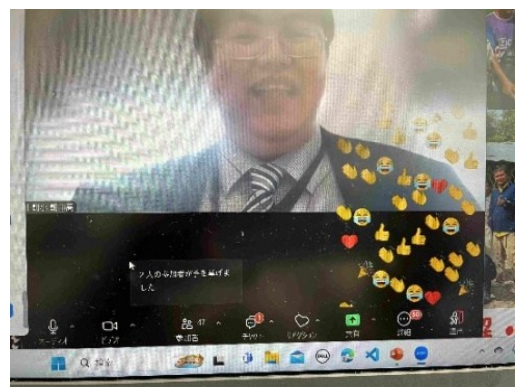
(4) カンボジアとのオンラインセミナー

6月12日(水)、JMASは朝日小学生新聞社主催の取り組みに参加し、兵庫県たつの市立龍野小学校の5年生／6年生及び長崎大学教育学部附属小学校5年生に対して、カンボジアにおける「地雷除去活動(マイナスからゼロへ)」、「村づくり、学校整備、農業支援などの活動(ゼロからプラスへ)」などを紹介しました。児童からはJMASの取り組みに大きな反響がありました。

また、8月3日(土)には午前と午後の2回にわたり、全国の約500名を超える児童に対して、「地雷のない故郷で平和な暮らしを」をテーマに、カンボジアにおけるJMASの活動や、現地小学校の様子などを紹介しました。



中野専門家による地雷除去の説明と参加者からの質問



主催者がとりまとめを行った際の参加者からの「いいね」リアクション

3 新たな地域における事業の検討

(1) ウクライナ関連

1月14日、陸上自衛隊施設学校及び武器学校等と第2回の合同勉強会を実施しました。これは、地雷・不発弾処理についての発表、意見交換を通じ相互の理解を深めるものです。

今回、会からは昨年ウクライナ周辺国において実施した現地調査の成果、現在、会の取り組みとして調査研究している内容等について説明しました。今後も定期的にも実施していく予定です。



合同勉強会

(2) セネガル関連

穴見財団から助成金のご支援を受けセネガルにおいて2回にわたるERW処理支援事業に関する現地調査を行いました。

ア 第一次現地調査(8月18日から29日)

ダカールにおいて日本大使館、MAG、JICA等でジガンショール州のERWの汚染状況、同国政府のERWへの取り組み状況及び活動基盤に関する情報を収集しました。また、ジガンショール州においてCNMAS(ERWを統括する政府機関)、自治体、同州で活動中のNGO等から、ERW汚染地域の状況、現地のニーズ及び活動基盤の確保の可能性について確認するとともに処理事業実施の課題について意見交換を行いました。

イ 第二次現地調査(3月15日から28日)

受け皿となる現地機関の設立とJMASと同機関との関係について明確にするとともに、活動を行うためのセネガル国内の諸手続き(組織・活動認定、MOU、SOP)等について確認しました。また、事業申請に必要な見積資料を取得するとともに勤務・生活環境等について調査しました。



HI(NGO)の処理現場視察



CNAMSとの調整



▶会勢概況(令和7年3月31日現在)

会 員	個人正会員214名	法人正会員39社	賛助会員9名
寄附件数	107件		

特別協力企業・団体一覧

連番	企業・団体名	連番	企業・団体名
1	株式会社IHIエアロスペース	36	株式会社ステップ
2	IOS株式会社	37	成城高等学校
3	株式会社IDホールディングス	38	全国防衛協会連合会女性部会
4	青森駐屯地修親会	39	仙台駐屯地業務隊OB会
5	明野駐屯地修親会	40	仙台駐屯地修親会
6	アサガミ株式会社	41	善通寺駐屯地修親会
7	株式会社朝日学生新聞社	42	ダイキン工業株式会社
8	旭精機工業株式会社	43	大和探査技術株式会社
9	有限会社アップワールド	44	高根東小学校
10	いきる農園	45	株式会社ダスキン龍ヶ崎
11	出雲駐屯地修親会	46	中国化薬株式会社
12	伊丹駐屯地曹友会	47	中部方面曹友会
13	一四会	48	土浦駐屯地修親会
14	岩手駐屯地修親会・曹友会	49	デジタルリサーチ株式会社
15	玩基貿易株式会社	50	豊田通商株式会社 モビリティ本部
16	小原台クラブ	51	新潟県立大学国際ボランティアサークルRUENG
17	海田市駐屯地修親会・曹友会	52	日進東中学校
18	春日井駐屯地修親会	53	ニッセイ保険エージェンシー株式会社
19	株式会社絆フレンズ	54	日本電気株式会社
20	株式会社北日本銀行	55	函館駐屯地修親会
21	株式会社グッドウ	56	パブリックソース財団
22	株式会社クレスコ one%club	57	深田サルベージ建設株式会社 東京支社
23	高知商業高校	58	藤倉航装株式会社
24	コマツ	59	富士修親会
25	コマツ サステナビリティ推進本部 地雷除去プロジェクト室	60	富士通株式会社
26	堺浜寺ライオンズクラブ	61	公益財団法人 防衛基盤整備協会
27	相模原橋本ロータリークラブ	62	一般財団法人 防衛弘済会
28	NPO法人サンタピアアップ	63	マイクロン・コー株式会社
29	三木会	64	前川原駐屯地修親会
30	島松駐屯地修親会	65	特定非営利活動法人 松戸あんしんサポートネット
31	尚友会	66	株式会社ミレデザインズ
32	昭和コンクリート工業株式会社	67	株式会社武蔵富装
33	伸誠商事株式会社	68	陸栄会
34	神町駐屯地修親会	69	陸上自衛隊中部方面音楽隊後援会
35	新陽株式会社	70	レディス枚方21

寄附型自動販売機協力企業

連番	企業・団体名	連番	企業・団体名
1	アサガミ 株式会社	5	会社 通信設備エンジニアリング
2	アサガミプレスセンター株式会社	6	昭和金属工業 株式会社
3	アサガミプレスいばらき株式会社	7	マイプリント株式会社
4	旭精機工業株式会社		

▶ご支援のお願い

JMASの活動は、皆様からのご支援に支えられています。
ご支援、御協力宜しくお願い致します。

正会員、賛助会員として参画頂ける方

正会員	賛助会員
個人：1万円／年	1口千円以上／年
法人：1口（5万円以上）	税法上の「寄附金控除」の対象です

（注）

正会員：法人の目的に賛同して入会した個人及び団体で、総会において議決権を有します。

賛助会員：法人の事業を賛助するため入会した個人及び団体で、総会において議決権を有しません。

ご寄附を頂ける方

ご寄附
3千円以上※
税法上の「寄附金控除」の対象です

※当会は認定NPO法人ですので税法上の寄附金控除対象です。

なお、「認定更新申請」の条件を満たすためには、3千円以上のご寄附が必要となります。ご協力をお願いします。

ご入会・ご寄附の方法

JMASホームページで、「ご寄付・ご支援のお願い」をクリックし、画面の指示に従ってお手続きをお願いします。
ご寄附は、上部の「ご寄付」からも行えます。



お振り込み方法

郵便振込の場合

口座名： 特定非営利活動法人
日本地雷処理を支援する会
口座番号：00170-1-13709

* 郵便振込用紙(赤色)を利用し、ゆうちょ通帳・カード扱いで振り込んで頂くと手数料はかかりません。

銀行振込の場合

銀行名：三菱UFJ銀行
支店名：市ヶ谷支店(店番014)
口座名：特定非営利活動法人

日本地雷処理を支援する会
(仮名標記「トクテイヒエイリカツドウホウジン ニホンジライシヨリヲシエンズルカイ」)
口座番号(普)：1320125

他にもこんなご支援の方法があります

☺書き損じ葉書をお送り下さい

書き損じ葉書郵送用として、返信用封筒をお送り致します。

☺寄附型自動販売機の設置ご協力のお願い

JAMS寄附型自動販売機の売り上げの一部は、当会への寄附となり、世界の地雷・不発弾処理活動に活用させていただきます。



○設置、置き換え無料です。

○手間や費用はかかりません。

○全国何処でも設置可能です。

○寄付型自動販売機設置に関するお問い合わせ先
特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会

フリーダイヤル: 0120-937-650

サイドアドレス: <http://kjf.or.jp/>

▶研修・見学・講演・取材申し込み受付



高知商業高校の生徒さんたちのJAMS研修
(探知器の体験)

- ・東京本部における研修
- ・海外現地代表事務所における研修
- ・海外の処理現場等における見学
- ・講演会の実施
- ・取材等

ご希望ありましたらご連絡ください。

(お問い合わせ先)

認定特定非営利活動法人
日本地雷処理を支援する会 事務局
〒102-0074

東京都千代田区九段南3-8-10

川内(かわち)ビル10階

TEL : 03-6261-7851

FAX : 03-6261-7852

笑顔がすき
人間がすき
平和がすき



認定特定非営利活動法人

JMAS 日本地雷処理を支援する会

Japan Mine Action Service

〒102-0074

東京都千代田区九段南3-8-10

川内ビル10階

TEL : 03-6261-7851

FAX : 03-6261-7852

Email : jmas-hq@jmas-ngo.jp

URL : <https://www.jmas-ngo.jp>



アクセス

市ヶ谷駅から徒歩5分

(総武線各駅停車、有楽町線、南北線、都営新宿線)